



千年の時を超えて

どんなことでもそうですが、長くやっているといろんな経験をします。

私は、高校からバイオリンを始めて現在に至るまで、20年ほど楽器を演奏していますが、それを通して学んだことは測り知れません。

練習や努力の大切さ。緊張に打ち克つ方法。

仲間と気持ちを揃えて演奏する事の楽しさ。

集団活動のルール。

聞いてもらう人の笑顔が見られた時の喜び。

いい演奏が出来た時の感動。

失敗してしまった時の悔しさ。

それは、その時に真剣にやったからこそ学べることが出来ました。

そのおかげで、今の自分があるとも思っています。

実は今でも、その時の仲間と演奏を続けています。(休日には福祉施設や病院等で演奏することがあります。最近では講演とセットで演奏を依頼されることも増えてきました。つい先日も、教会で1時間半講演をした後に数曲奏でてきた所です。)

真剣に取り組むことの尊さは、教師になってからも伝えたいとの思いがありました。

ですが、全ての子にバイオリンを演奏させるわけにはいきませんし、時折熱く語って聞かせる程度では、中々子どもたちに残っていきません。

しかし、こうしたことは学習とは別次元で非常に大切なことです。

何とか日々の学級活動の中で伝えていく術がないかと考えていた時、百人一首に出会いました。

百人一首には、千年の歴史があります。

実際にかかるたとして遊ばれるようになったのは江戸時代からだと言われて
いますが、それでも四百年の歴史があります。

その百人一首を短時間でもできるように二十首ずつに分けて五色に色分け
したのが、五色百人一首です。

これをクラスで始めて17年になります。

その間、やり方も工夫や改善を加えて進化させてきました。

百人一首を学ぶことによって、様々身に付く力があります。

1. 記憶力がよくなる。
2. ルールに対する正しい態度を学べる。(勝ち負けをきちんと受け入れら
れるようになります)
3. 古い日本語を学べる。(古典が好きになります。)
4. 反射神経がよくなる。(すべてのスポーツに必要な「視神経」が特に鍛
えられます。)

そしてこれ以上にぜひとも伝えたいのは、先にも述べたように「真剣に取り
組むことの尊さ」です。

一所懸命物事に打ち込む素晴らしさです。

過去に受け持った学級でも、百人一首を通じて様々なドラマがありました。
陰で努力を積んで、驚くほど力を伸ばす子がいました。

試合に負けて、涙する子もたくさんいました。

公式の大会に出て、メダルを獲得した子も大勢います。(過去、渡辺学級か
ら奈良県チャンピオンや札幌チャンピオンが誕生し、メダリストの数は通算
30人を超えています)

千年前から伝わる歌を一つ一つ学び、真剣に物事に取り組む素晴らしさを
体感してほしいと願っています。

そして今年もまた、百人一首に取り組み始めました。

現在取り組んでいるのは、五色あるうちの青札です。

ご存知の方も多いと思いますが、百人一首には上の句と下の句があります。
例えば、

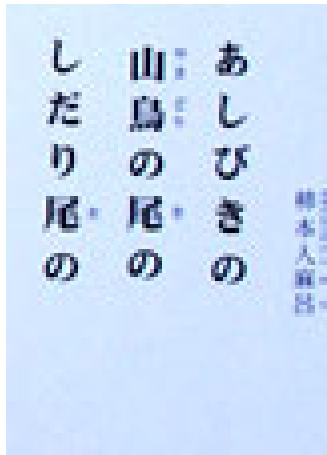
「あしびきの 山鳥の尾の しだり尾の ながながし夜を ひとりかも寝む」

という歌では、「～しだり尾の」までが上の句、それ以降が下の句です。

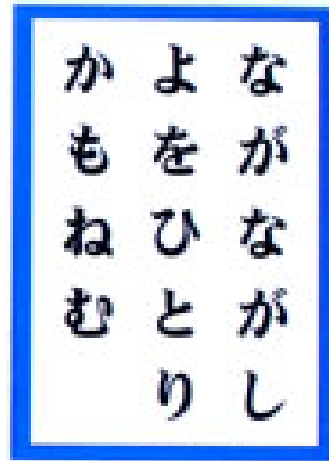
子どもたちが試合の時に見ているのは札の表、つまり下の句だけです。

ですから、1句まるまる暗唱していれば、下の句を聞かずとも「あしびき

の～」でいきなり札を取ることが出来るわけです。



(札の裏)



(札の表)

クラスでは、最近ぐんぐん百人一首人気が高まってきました。

百人一首を始めると

「イエーイ！」

「やった～！」

と歓声上がるようになりつつあります。

それとともに、着実にレベルアップを遂げてきました。

もちろん、最初から全員が熱心に練習に取り組んだわけではありません。

取り組み始めた当初は、少しだらっとした雰囲気があったのも確かです。

しかし、どんどん覚える歌が増えるにつれ、1回1回の試合にも真剣みが増すようになりました。

近頃は、百人一首をしない日があると、

「先生、今日百人一首しないんですか？」

なんてことを言う子が出始めたほどです。

ついこの前は、クラスの数人が

「先生、休み時間に百人一首やってもいいですか？」

と聞きに来て、自分たちでついに試合を始めました。

人気の秘密はいくつかありますが、中でも次に列挙する「仕組み」は特に重要な位置を占めます。

- ①昇級システム
- ②合言葉による暗唱
- ③ランダム対戦システム
- ④学級内トーナメント

⑤異学級交流戦

すべてについて詳しく書くと通信数枚分になるため、概略だけ紹介します。

①と②は、全ての子が百人一首を覚え、楽しく取り組めるようにするための仕組みです。

得意な子だけでなく、苦手な子も活躍できるシステムを作ることには大きな意味があります。

また、合言葉と共に札を読むスピードは重要です。

楽しく、かつ知的に百人一首に取り組むためには、一定のスピードが担保される必要があるからです。

始めたばかりの時は1試合に4～5分、現在は1試合に2～3分かかっていますが、歌をきちんと覚え、合言葉システムを活用すると、1試合に1分かからないほどに成長します。(1年生でも同様に実施できます。)

③は、クラス内の仲間づくりの一環としての意味合いが大きいです。

百人一首を通じて、クラスの仲は確実に深まってきました。

これは、断言できます。

互いに名前を呼び合い、ペアを作って楽しく試合をする中で、たくさんの交流が生まれているからです。

④と⑤は、一言でいうと「緊張場面の設定」です。

日々積み重ねてきた力をぶつけ合う場を作ることによって、さらに子どもたちの熱が高まるからです。

約1か月後、クラスで最初のトーナメントを開催する予定です。

これらの一つ一つは、大変些細なことですが、

それがあつたのと無いのでは、子どもたちの取り組み方に大きな違いが生まれます。

少しでも知的に熱を出し切る学びを行うべく、細部にこそこだわって仕組みを作っていきたいと思っています。(いつか、親子百人一首大会など催せたら素敵だなあと考えているところです。)

千年の歴史を超えて伝わった歌をつかって、楽しく知的に学んでいきます。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

